

スポーツの力 アスリートのコトバ

「勝って^{おご}驕らず、負けて^{くさ}腐らず」



私が大切にしている言葉は「勝って驕らず、負けて腐らず」です。この言葉は、成功しても慢心せず、失敗しても落ち込んで止まらず、結果に一喜一憂し過ぎず、常に前向きに努力し続けることを意味します。

試合に勝った時や自分のプレーがうまくいった時こそ、結果に満足して慢心するのではなく、次に向けて自分に足りないものを見つめること。そして、負けた時や思うようなプレーができなかった時も、下を向いたり投げ出したりせず、その経験から学び、次につなげることを大切にしています。

今シーズンも、目の前の一試合一試合を大切に、「勝って驕らず、負けて腐らず」という言葉を胸に、どんな状況でも平常心を忘れず、良いことも悪いことも全ての出来事を成長の糧にして、最後まで忍耐強く、優勝という目標に向かって、チーム一丸となり戦います。

市では、毎年必要な施策を実施するため、予算を立て、評価を行っています。事業執行に必要な財源の多くは、市民の皆さまからの税金で、適正かつ有効に執行することとは当然のことです。その使い方を決め、評価するうえで、市議会にも、予算の審議や決算の審査という大切な役割を担っていただいております。

この時期、議会では令和7年度事業の決算を審査していただいています。令和7年度予算は「安心できるまち、人が集まる磐田市」を基本目標に掲げ、海岸堤防整備や向陽学府小中一休校整備などの大型事業を含め、1年間で約1500億円の事業を執行してきました。

決算では、当該年度やこれまでの積み上げの「道路を整備した、イベントを開いた」などの事実の評価だけでなく、「暮らしが便利になったのか、不安が減ったのか、新しい挑戦が生まれたのか、まち

は成長しているのか」などさまざまな角度から成果を評価することが大切であり、私も事業報告を振り返り、検証と次への課題の整理を進めることができました。成果があったものはさらに生かし、改善が必要なものは見直し、さらには災害や老朽化した公共施設の建て替えなどに備えて、将来に必要なお金をどう残すかという視点も含めて、課題や今後の方向性を、議会を通じて市民の皆さまや市役所内部でしっかりと共有していきます。

今年度も上半期が終わり、次年度に向けた動きが始まっています。限られた資源であるお金や人をどう生かし、未来の選択肢をいかに生み出せるか、挑戦と成長につなげられるか、「ここに税金が使われているなら納得できる」と思っていただけの市政を目指し、改善を重ね、説明責任を果たし続けていきます。



大クスの下から

第62回

市民が納得できる税の使い方へ

市長 草地博昭